

面積表

機能と面積の割り振り

25

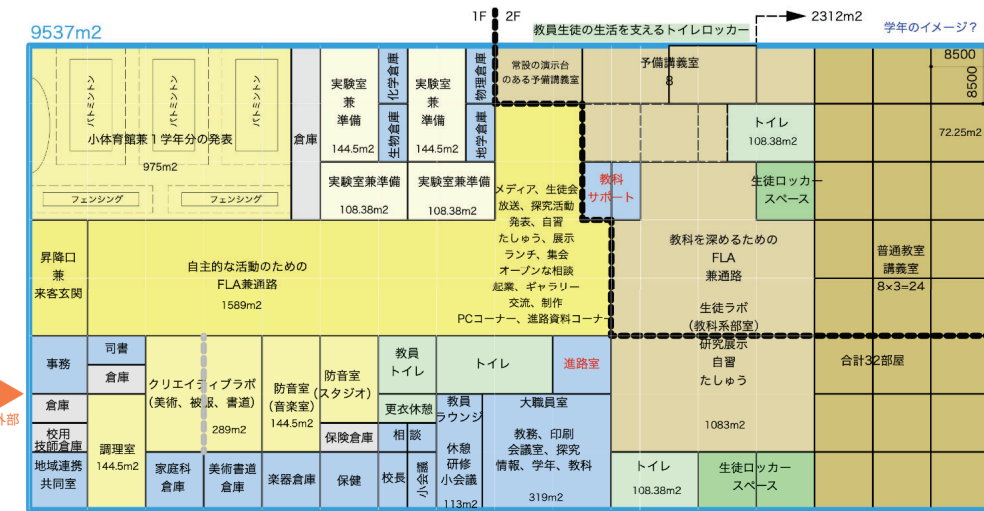
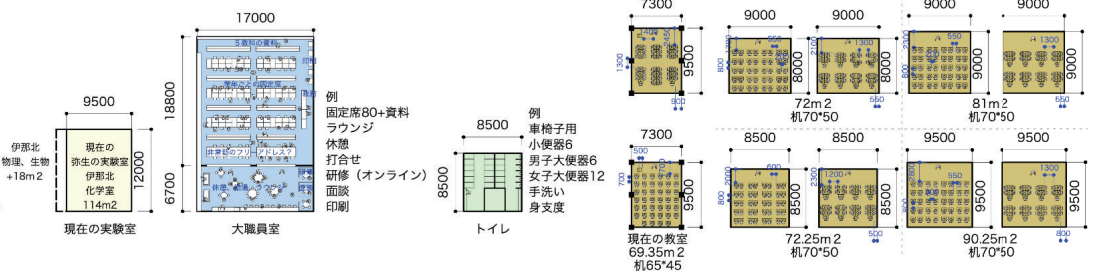
機能と面積の割り振り

前回からの変更点

教室関係
実際の広さを今後1/1で検討したい

その他
2階にも教科をポートしたり、生徒の心理状態に合わせたサポートができるスペースが必要。

進路室は来客が多いため、大職員室では対応しにくい来客の対応しやすい位置に独立させる



外との繋がりの強い 教職員エリア
自主的な活動を深めるFLA
学びを実現する機能 (特別教室)
生徒をファミリー化する 教員エリア
教科を深め横断するFLA
クローズな講義室エリア

いわき光洋高校 教室 9500*9500 机 700*500
2割1のテーブルの活用も見られた

26

伊那新校らしい学びのための環境

東側の景色





北側校舎から何が見えるか？

29

西側の景色



生徒の姿が、伊那新校の1番の魅力

どんな姿が見えるか？

31

生徒が主役になる風景



32

今までの学びを支えたデザイン

管理的なデザイン

例：正門、正面性



象徴からセキュリティーラインへ

アクセスしやすい学校で

多様なつながりを

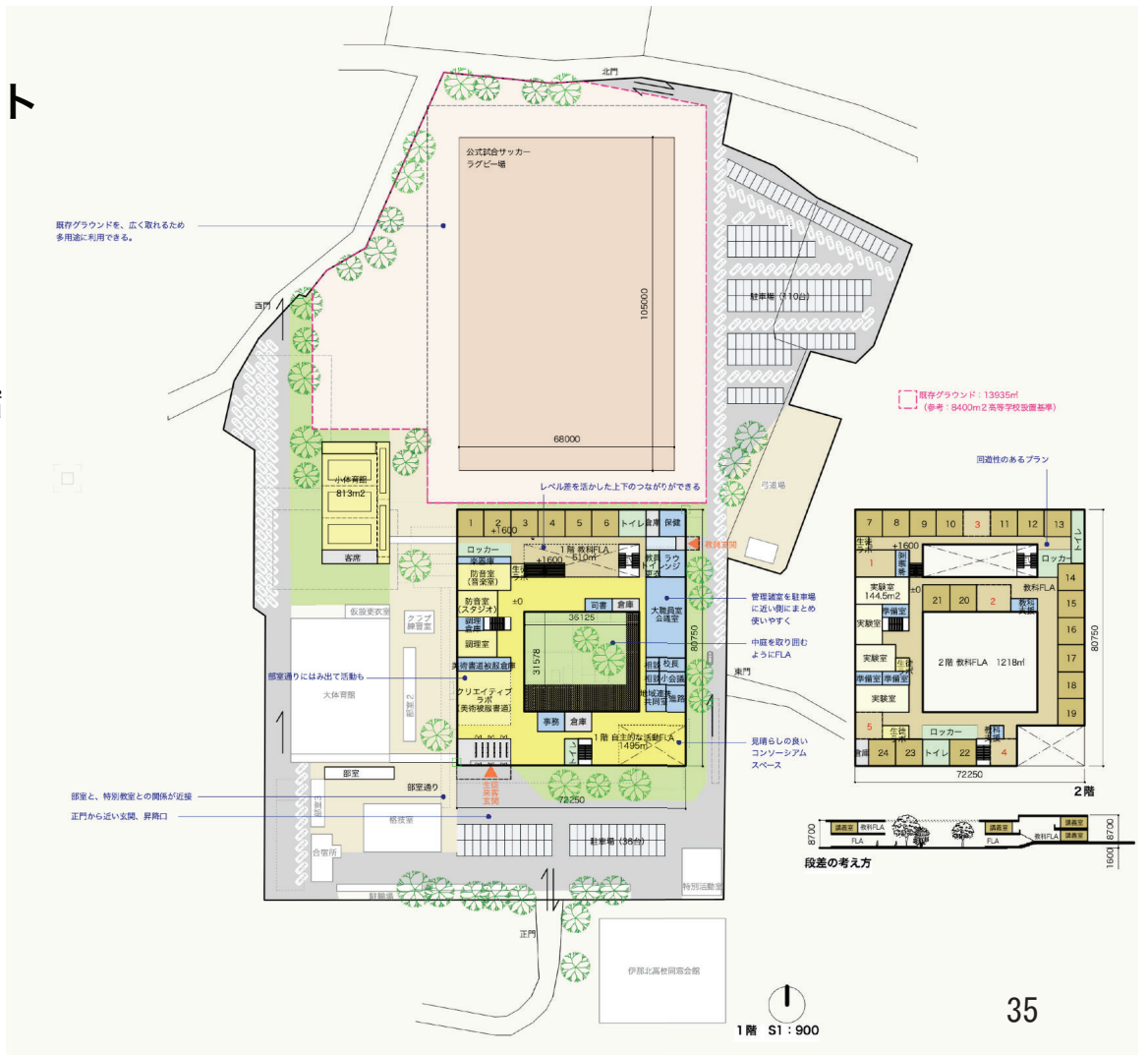
33

配置と単線レイアウト

34

南側校舎案
単線レイアウト
既存施設と
連携の取れる
合理的な計画

室内面積9649㎡



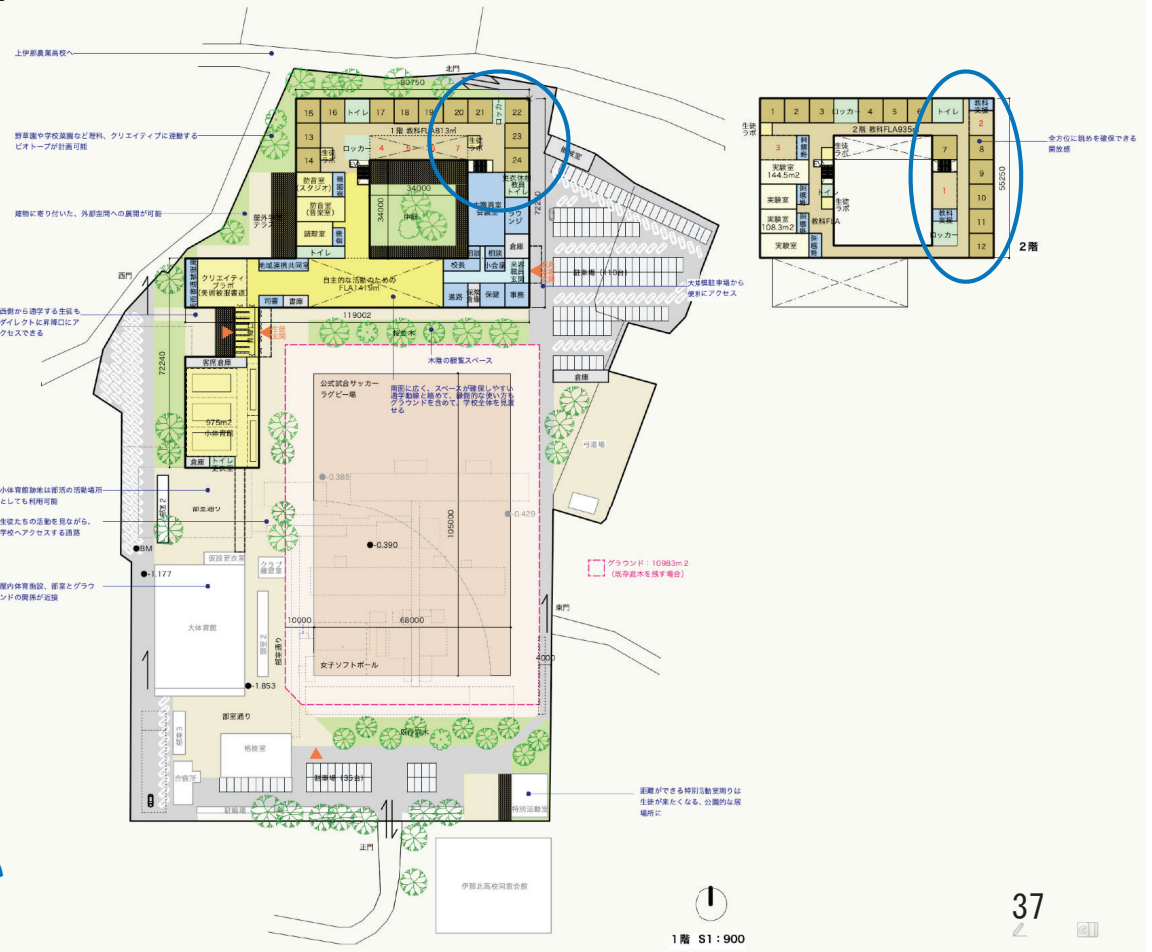
南側校舎
南側から見る



北側校舎案 単線レイアウト

敷地全体に
広がりのある
計画

E 校舎北案 (単線レイアウト)
室内面積：9615㎡



課題
体育館が遠く、
体育と保健体育
の授業を連続し
て組めない

既存の校舎と
比べてどのくらい
遠くなるのか？

北側校舎 南側から見る



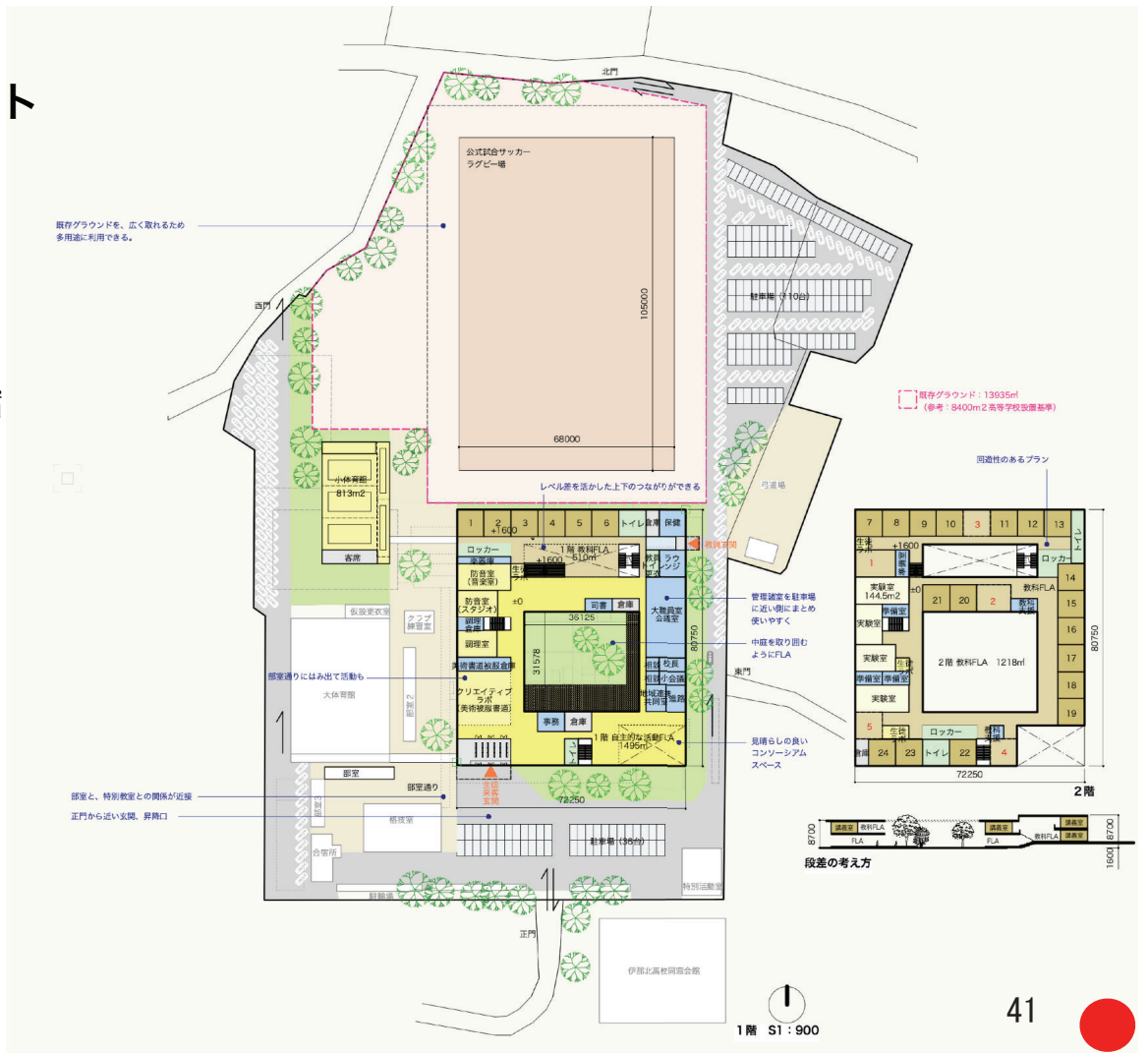
NSD会議 03

39

南側か北側かを判断するための
単線のレイアウト
(平面図ではない)

南側校舎案 単線レイアウト 既存施設と 連携の取れる 合理的な計画

室内面積9649㎡



南側校舎 南側から見る



南側校舎
東側から見る



南側校舎
西側から見る



南側校舎
南東から見る



南側校舎
南から見る



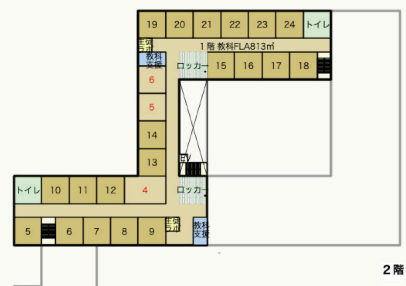
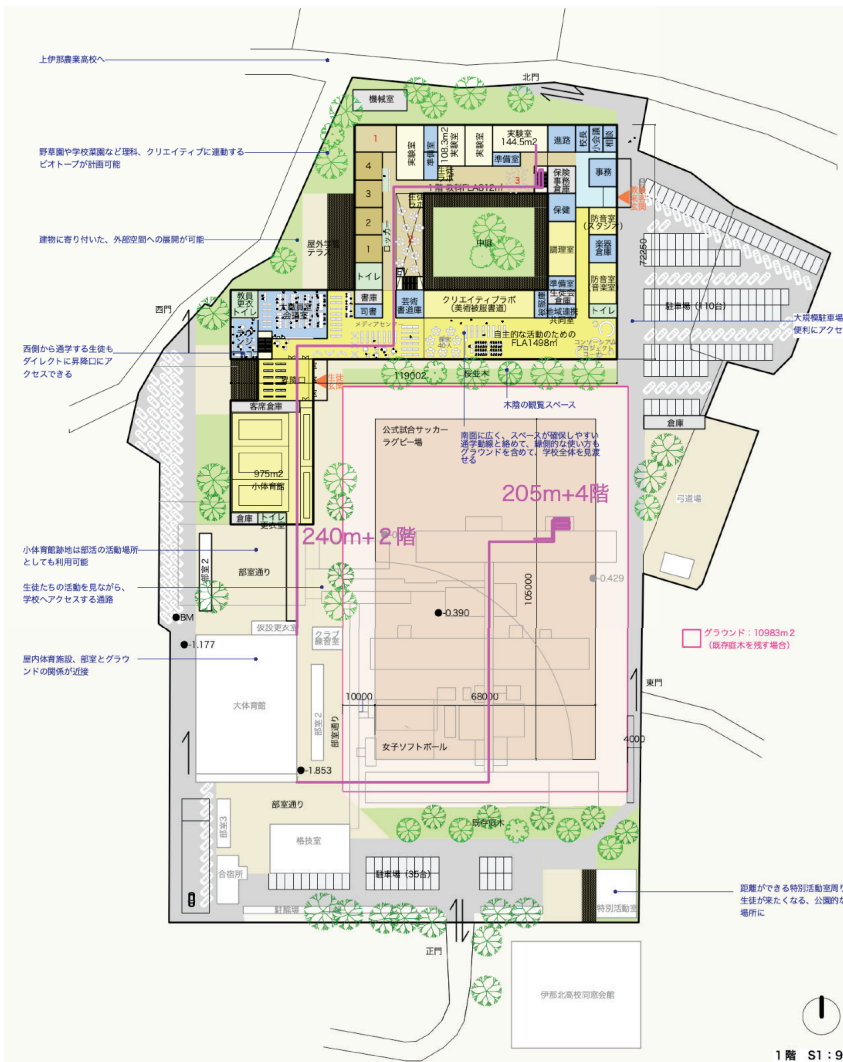
南側校舎 空間の特徴



南側校舎案の特徴

- 伊那北駅、伊那北高校同窓会館、高志館、大体育館に近い
- 南側に来客駐車場と校舎を取るため総2階建
- 段差を利用したつながりを作れる
- 現在の配置と同じため、馴染みがある

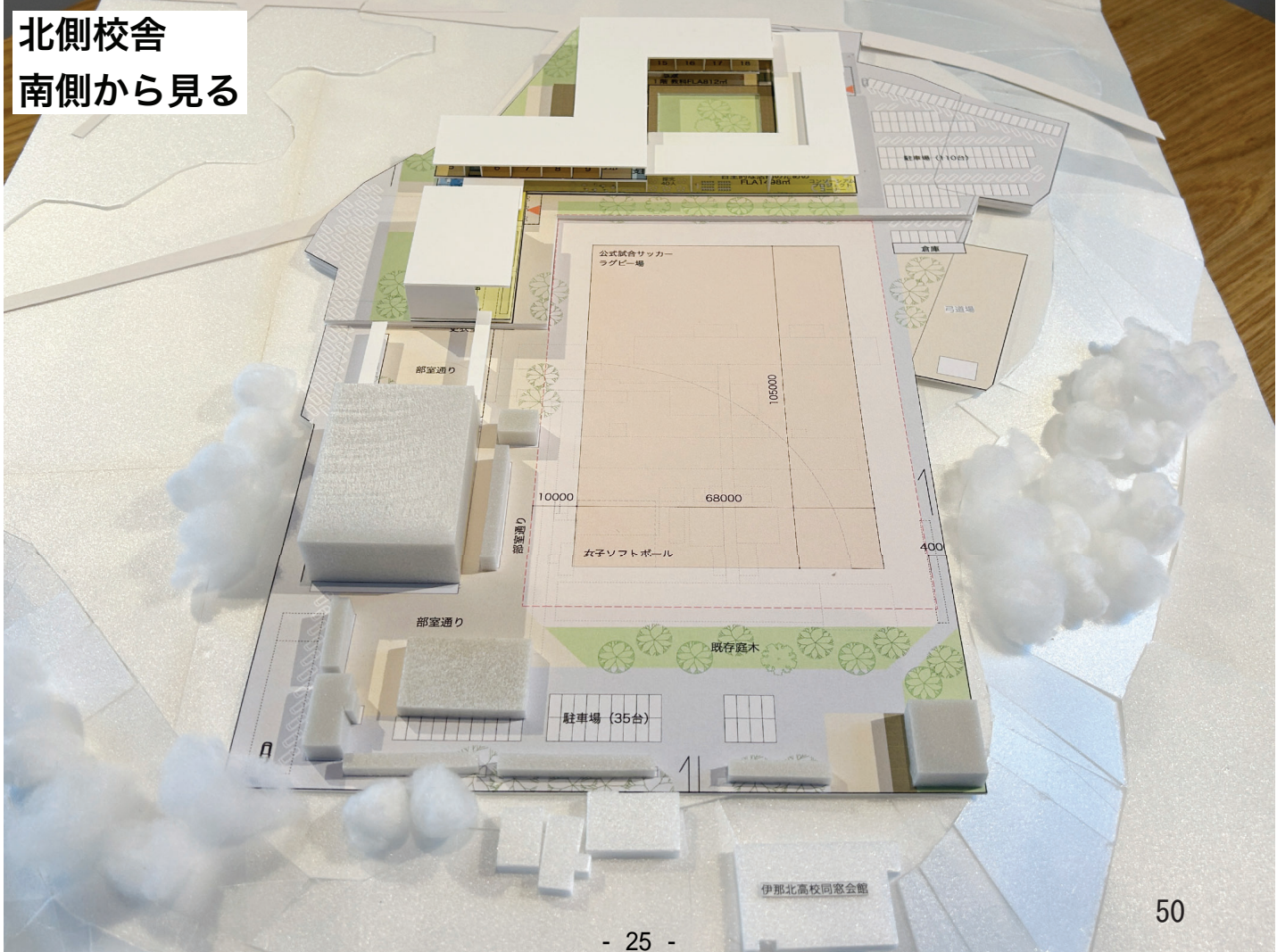




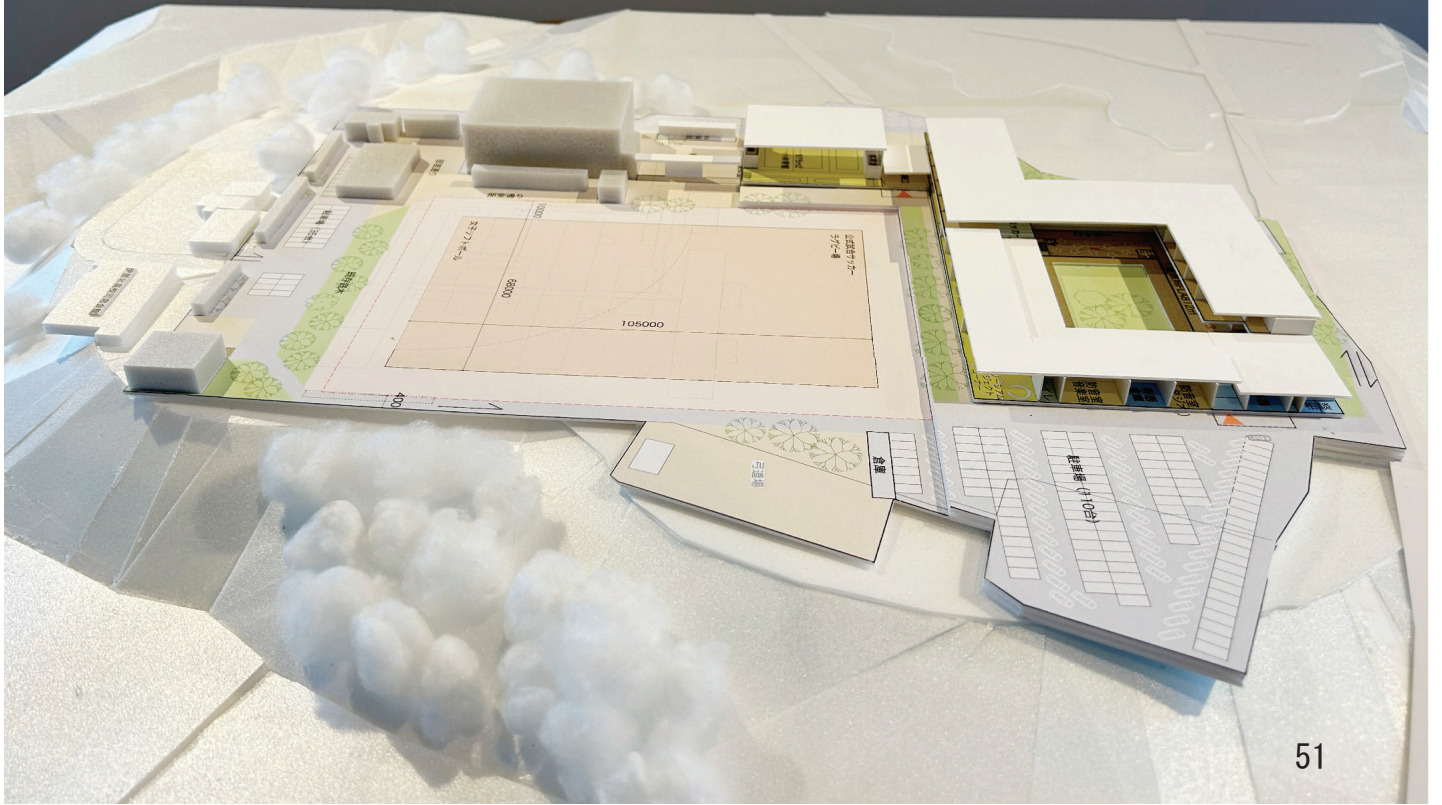
改良版 北側校舎
単線レイアウト
敷地全体に広がり
のある計画

講義室と体育館の距離
を改善

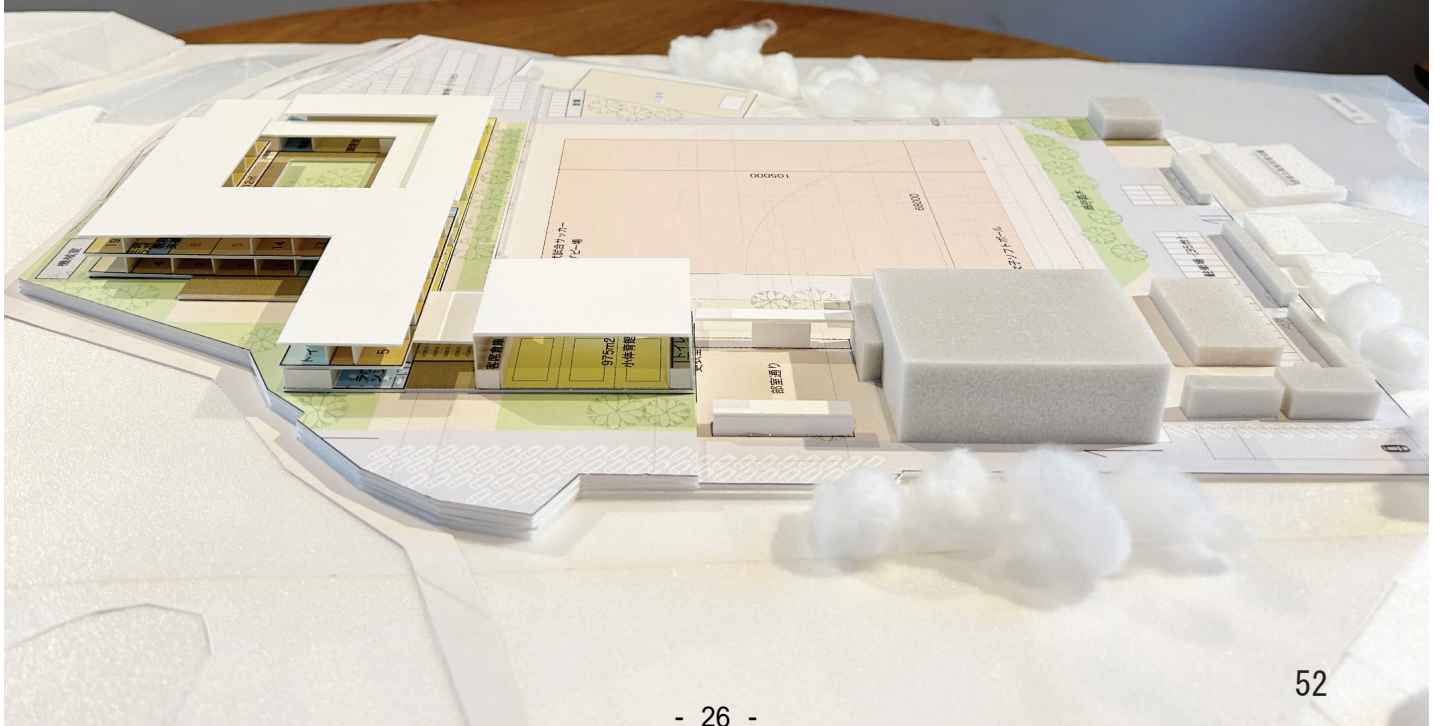
北側校舎
南側から見る



北側校舎
東側から見る



北側校舎
西側から見る



北側校舎
南東から見る



53

北側校舎
南から見る



54

北側校舎 空間の特徴



北側校舎案の特徴

- 建てられる範囲が広いため、平屋部分が出来る
- 東西の幅が広いため、南に面する幅が広い
- 来客動線を東側に取ると、南にFLAを長くとれる
- バリアフリーの範囲が広い



伊那新校の新しい学びの空間のために

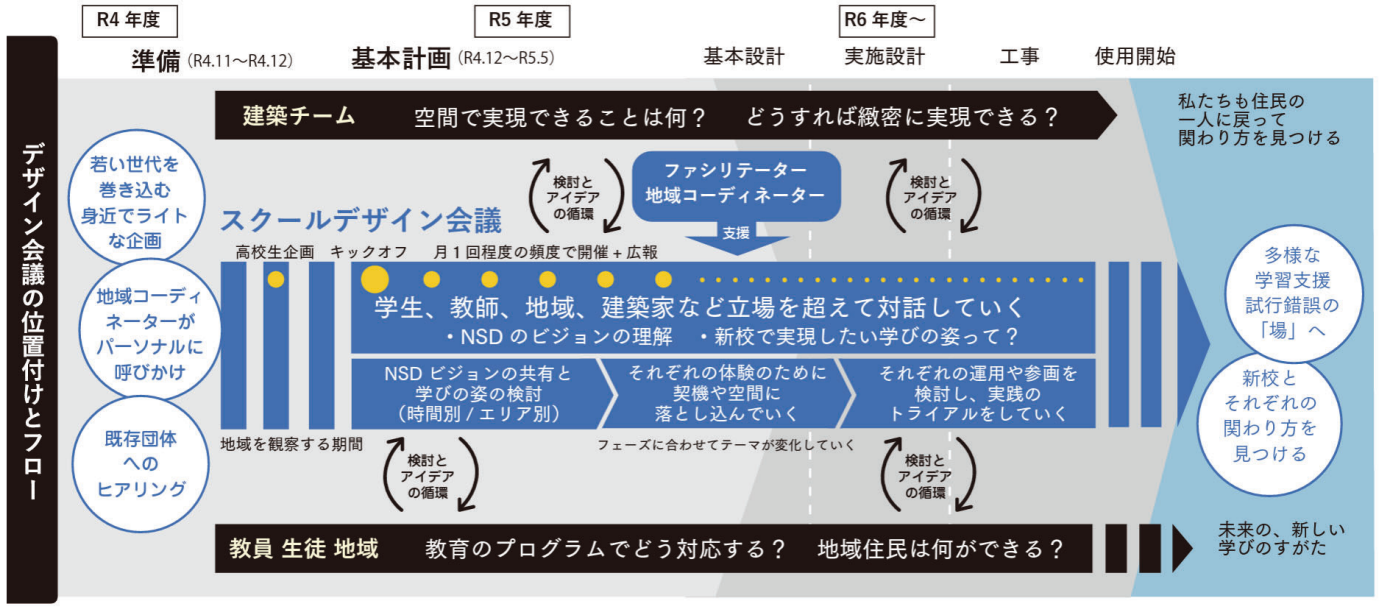
- ・多くのことで悩むことになる高校時代、学校を伸びやかで、深呼吸できるような場所に
- ・人間同士の学び合いだけでなく、豊かな自然から多くのことを感じ取れる学校に
- ・誰も取り残されない公正な環境を学校から

57

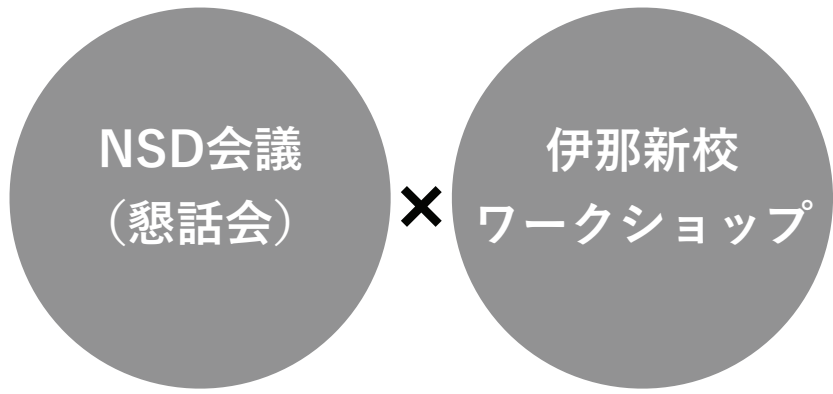


みんな
伊那新校の
学習空間を
考えよう

58

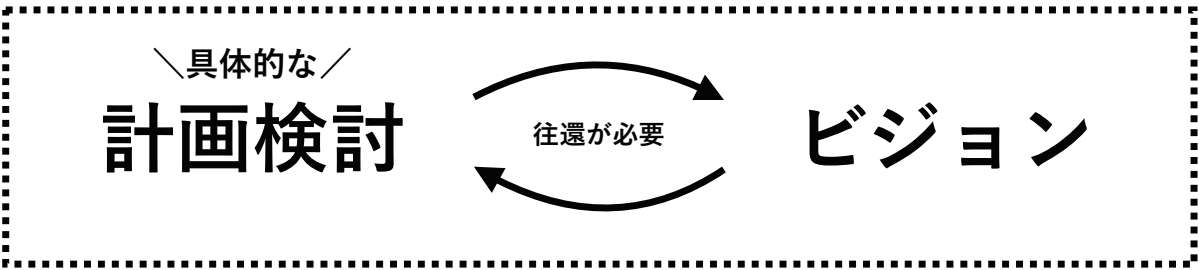


スクールデザイン会議



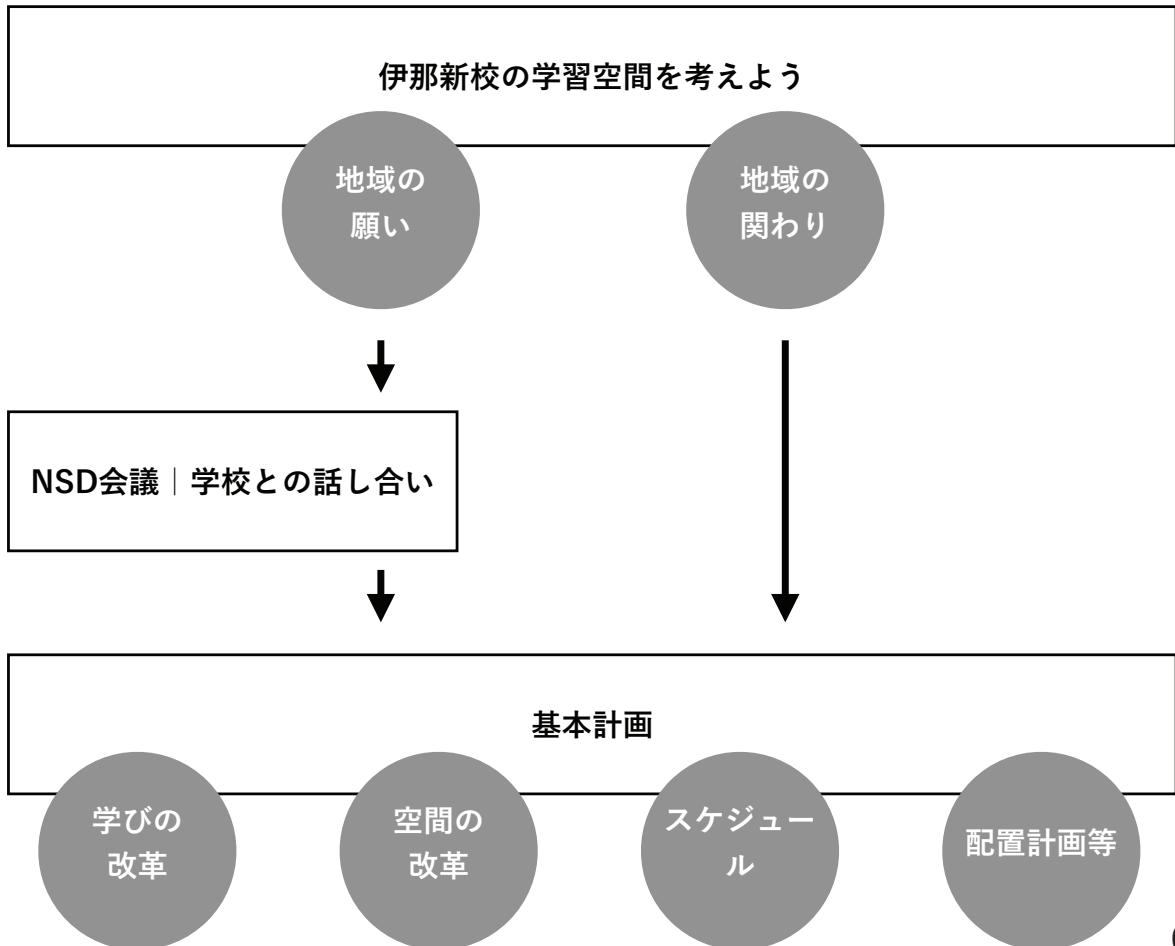
NSD会議（懇話会）

＼新しい学びと学習空間に活かしていく／



新校ワークショップ

61



62

- 1 3/5 伊那新校の役割ってなんだろう
- 2 3/27 新しい学校で過ごす1日をイメージしよう
- 3 4/16 高校での「心ふるえる瞬間」は？
- 4 5/15 新しい学びのシーンをイメージしよう

発散

集約

63

関わり方のデザイン

実際の「関わり方」を考える

地域から「学びを支える」部活動
作りませんか？

＼ 2回目のWSでも総評で触れましたが ／

関わり方のデザイン

「バリエーション」

と

「グラデーション」

65

バリエーションとは、「学びを支える活動」

学校と地域の橋渡し（コーディネート窓口）

アントレプレナーシップ教育

まちの居場所づくり

お金の支援

- ・
- ・

66

グラデーションとは、 学びを支える活動への「関わりかた」

運営主体
運営参加
活動主体
活動参加
見守り（応援）

67



設計JVとしての願い

地域の皆さんとの対話を起点に
具体的な設計へ

新校をつくるがゴールではない
今を「関わり」の助走期間に

69

まとめ

新しい学びを実現する「FLA」

生活のしやすさ（余裕）

自分たちで選べる

リラックス

教員の余裕

70